

ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第17回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

三大〇〇

日本人は三大〇〇というのが好き、とよく聞きます。三大祭り、三大料理、三大河川など。

作曲家で三大Bと言えば、バッハ、ベートーベン、ブラームスです。

「は？ベートルズが入つたらんじやないか、けしからん」と思った方は大変申し訳ありません。ドイツの偉大な三大作曲家になります。三百年前の人物とは思えないほど、今でも充分に新しいコード感と構築性を持つバッハ。人類が到達した最高の音楽、と言われたベートーベンの第九。

中でも僕が惹かれるブラームスは一際人間らしい魅力的な作曲家です。

学校の音楽室の強面で髭もじゃな姿でおなじみのブラームスですが、なんと若かりし頃は繊細なイケメン。民族音楽の収集にも力を入れていて、世界的にはハンガリー舞曲の第五番が最も有名でしょうか。

ブラームスはとてつもない完璧主義で、少しでも気に入らない作品は、容赦なく破棄しました。作曲中は神経が研ぎ澄まされていたため、窓を人影が横切っただけで殺意が芽生えたと言われています。

そんな神経質な一面もあるブラームスですが、彼の書いた音楽は、とても人間らしい感情や、情感に満ち溢れていて本当に魅力的です。

どの曲も本当に素敵ですが、ヴァイオリニストとして、三曲あるブラームスのソナタは是非オススメしたいところですよ。

百年後に自分の作品が残るか残らないかを意識して作曲していたのか、それともひたすら目の前の作品に没入していたのか、個人的には後者であってほしいなと思っています。素晴らしい伝統のあるクラシックが、ここまでパワーをなくしている時代はあったのでしょうか。

日本だけならともかく、以前ドイツに行った時に、ドイツ人通訳から「ドイツの若者のクラシック離れ」は深刻だ、と聞きました。

伝統のあり方が問われる時代になってきました。

橋下徹さんの文楽に関する予算削減問題しかり、様々なアプローチで色々な人に見てもらえるように変化していく歌舞伎しかり。

2018年にご一緒させていただ

た、流派を超えて結成された日本舞踊「五耀会」の皆さんも「そもそもどうやったらもっと日本舞踊に興味を持ってもらえるか」という事を真剣に考え、行動に移してらっしゃいました。

自分も只今絶賛模索中です！よく、自分探しに出掛けて行ったバッターが、二度と帰ってこない、って話を聞きますが、「戻って来られるかどうかは、やるべき事をやって天命を待つしかない。」

同じ時代を生きる者同士、お互い頑張りましょう！



profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。
2010年キングレコードからメジャーデビュー。
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。